



TITLE:

京都外科集談会第338回例会

AUTHOR(S):

CITATION:

京都外科集談会第338回例会. 日本外科宝函 1957, 26(6): 1131-1132

ISSUE DATE:

1957-11-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/206415>

RIGHT:

京都外科集談会第338回例会

昭和32年6月27日

(1) 坐骨神経痛を来した第5腰椎神経根奇型の1例

京大整形 藤田 仁・北 皎

抄録未提出

(2) 先天性骨脆弱症の1例

京大整形 長 靖 磨

3才頃より6年間に7回右上下肢のみに骨折を来し、右太腿・下腿に変形を来した8才の女兒、1才半ばより両眼に著明な青色鞏膜を見るも難聴はなく、方形頭、右眼瞼下垂の他、胸部変形なきも、右下肢棘踝長は2cm左より長い。

右太腿変形矯正のため楔形骨切術及び金属板固定術を行つたが、彎曲部4cmは骨髓なく、硬度も大であつた。それ以外の太腿骨は脆く光沢に乏しく柔らかであつたが、鏢子の固定は良好であつた。術後70日で大体癒合したものと思われる。

全身レ線写真では、変形は右下肢のみに認められる以外は、骨折の跡を見ないが、左右の下肢の骨皮質の菲薄さ及び骨粗鬆症様の度は差を認めない。

尚本患者の父に青色鞏膜と難聴、長兄に青色鞏膜を認める。

(3) 第2ケーラー氏病の2例

王造整形外科病院 山 田 栄

先に私は第2 Köhler 氏病の1例を報告したが、今回は第2中足骨の骨頭変形及び関節遊離体を伴う各1例を経験し、観血的療法により良好な結果を得たので追加報告する。

症例は26才女子で8年前ダンス練習中右足部の捻挫をしたことがあり、その後右足背痛及び腫脹があり歩行時鈍痛あるも放置していた。之が次第に疼痛は増強し、腫脹も発来する様になつた。

他の1例は13才女子で跳躍遊戯後に左前足部の鈍痛並びに腫脹があり、両者共にX線像所見によりAxhausenの所謂第3期と診断して、前者には関節遊離体の切除を、後者には骨穿孔兼骨移植術を併用して、術後良好な経過を辿つたものである。

発言 森 田 信

発現年齢とは症状発現の年齢の意と思われるが、疾患発現年齢と間違ひ易いので発表する際は症状発現年齢と明記されたがよいと考える。

(4) 先天性脊椎癒合症の4例

国立山中病院整形 福 田 敏 雄

症例1, 30才, 女, 第6, 7胸椎の不完全癒合と棘突起癒合。

症例2, 20才, 女, 第2, 3腰椎の完全癒合と椎弓変形, 棘突起癒合。

症例3, 13才, 男, 第2, 3頸椎の完全癒合, 第6, 7頸椎, 第3, 4胸椎第5, 6, 7胸椎, 第8, 9, 10胸椎の不完全癒合と棘突起癒合。

症例4, 8才, 女, 第7, 8胸椎の棘突起癒合。

以上4例の脊椎癒合はいずれも棘突起癒合を見たことから先天性であることは確実と思われるが、この様な所見を欠く癒合椎では脊椎カリエスによるものとの鑑別が非常に困難であつて、遠隔レ線撮影, 断層撮影, 或いは臨床並びにレ線像の長期観察等によつて慎重に診断を下す必要がある。

(5) 汎発性扁平椎の1例

国立山中病院整形 福 田 敏 雄

左下腿両側骨折手術時、棘突起間隙極めて狭少のため腰麻針を刺入しえなかつた患者(30才, 男)において、レ線検索の結果汎発性扁平椎を認めた。即第6胸椎以下殊に腰椎下部において椎体は著しく扁平となり、同時に椎間板はその厚さを増加している。又本症例においては尙優病性徴候を欠き、定型な Chondrodystrophie の所見もえられなかつたが、身体計測上より軀幹に比べて四肢は短小であつて、多少共骨長軸發育障害のあることを示しており、この点から本症の成因を考えれば、Weil の述べている様に脊椎を主としておかす Chondrodystrophie の一型とするのが妥当であろう。

追 加

(6) Morquio-Brailsford 型 Chondro-osteodystrophy の6例について

高松日赤整形 吉峰 泰夫・末 沢 登

最近当病院に於て比較的稀有なるものとされている Morquio-Brailsford 型 Chondro-osteodystrophy の6例を経験した。

第1例, 7才2ヵ月の女, 第2例, 17才の女, 第3例, 26才の女, 第4例, 23才の男, 第5例, 21才の男, 第6例, 16才の男で第1, 2例は両親が再従兄妹同士, 他の4例は姉弟で父親も同様症状を示している点, かなり濃厚な遺伝的要素が考えられる。以上につきその臨床像, レ線像を供覧した。特に脊椎々体と股関節に著明な変化を来しており, Platyspondylia を認める場合, Morquio-Brailsford 型 Chondro-osteodystrophy を考慮して特に全身を精査すべきであると考え。尚, 本症の原因は未だ充分解明されておら

ず。我々の検索に於ても決定的なものを得るに到らなかった。本症例については今後長期間の経過観察を行う予定である。

発言 森田 信

私も終戦後第1回の日本整形外科学会（大阪）にて汎発性扁平椎の1例並びに軟骨異發育症の数例のレ線像を比較観察して汎発性扁平椎は軟骨異發育症の非典型的なものだと発表している。今日、本沢学士の家族的に発生せる症例を拜見してその感を深くした。

追加 京大整形 鶴海 寛治

私は定型的な汎発性扁平椎症で外見上四肢に異常を認めないに拘らず、レ線상四肢骨々端に軽い Chondrodystrophia foetalis 様変化を認めた例を経験している。本例は両者の移行型であろう。

又両側上腕骨のみに限局した Chondrodystrophia foetalis を見ている。身体の一部の骨のみに限局した Chondrodystrophia foetalis もある。

(7) 両側尿管U字型腸膀胱吻合の経過

新宮市民病院外科 近江 達
同 婦人科 村山 達之助

50才の婦人の左右尿管狭窄、腔度に対して Foret 氏両側尿管U字型腸膀胱吻合を行い、特に腸蠕動による吻合部の緊張、縫合不全を考慮し臍置廻腸を左はS字状結腸間膜に設けた裂孔に通し裂孔縁に固定、右は盲腸端に固定し、尿管腸吻合は Kerr and Colby 法を用いた。尿管カテーテルとして直径2mmのポリエチレンチューブを留置したが、細く硬過ぎたと考えられる。カテーテルは左は10日目に抜去し右は2日目に誤つてぬけた。本手術は左側は成功、右は14日目より腔瘻の再発をみたが、カテーテルの早期抜去が比較的簡単確実な Kerr and Colby 法吻合部の哆開の一因と考えられる。術後過塩素血症はなく、腸管内分泌粘液は約1箇月間尿中に認められた。造影撮影後、一過性腎盂炎の発生をみた。術後、再発した腔瘻よりの漏出尿量は次第に減少し4箇月後の現在では約100~200ccとなり、膀胱からは1500~1800ccの自然排尿があり、一般状態良好で尚経過を観察中である。

(8) 肺炎後に発生せる幼児自然気胸の治験例

京大外 II 長瀬 正夫

肺炎発病後約10日にして特発性緊張性気胸を發した1才11ヵ月の男児に対し、穿孔部のみとめられた左下

葉を切除し全治せしめ得た。

本例は肺炎に膿胸を併発し、膿汁の圧迫によつて肺組織がネクロビオーゼに陥つて気管支瘻を形成し緊張性気胸となつたものと考えられる。

(9) 胆嚢癌の1例

大和高田市民病院外科

杉本 雄三・玉木 泰嗣

最近胆嚢癌の1例に遭遇し手術し得たが、術後43日目胆血症の爲、不幸な転機をとつた。69才男子、主訴：右季肋部腫瘍形成、現在症：全身倦怠感あるのみ。局所所見：右季肋部に超鶏卵大の腫瘍を触れ、運動性不良、呼吸性移動を僅かに認める。レ線透視、排泄性腎盂造影法により、腸及び腎臓と無関係のことが判明したが、術前胆嚢腫瘍との確診はなし得なかつた。組織学的には比較稀れとされている膠様癌で、内部は化膿性で、豌豆大の結石1ヶを認めた。即胆嚢底部より原発せる癌腫で、その爲黄疸を長く来たさなかつたものと考えられる。

(10) 埋没電極による無麻醉猫脳の電気刺激戦症状、特にArrest Reactionについて

外 I 黒木 輝夫

(11) 頭部外傷剖検脳に於ける間脳の組織学的変化

外 I 尾形 誠宏

(12) Magoun の延髓抑制系の検討

外 I 守安 久・松永 守雄

(13) レンズ核係蹄切截術 (Ansotomy) に対する1指針—レンズ核係蹄の電気的特性

外 I 半田 肇

Illinois Neuropsychiatric Institute

Bailey, P.

Levine, R. B.

Relzloff, E.

Till, K.

(14) 頭部外傷による意識障害

外 I 荒木 千里